

方式・日程	問題番号	出題分野	出題内容
A I 方式 1月23日 問題▶P.61~	第1問	小問集合	場合の数、絶対値を含む不等式、集合と命題
	第2問	確率	2枚のカードを取り出したときの確率、期待値
	第3問	図形の性質	平行四辺形の面積、余弦定理
	第4問	2次関数	2次関数の定義域、最大・最小
A I 方式 1月24日 問題▶P.62~	第1問	小問集合	場合の数、余弦定理、集合と命題
	第2問	図形の性質	線分の比と平行線
	第3問	2次関数	2次関数のグラフの頂点の座標、最大・最小
	第4問	確率	優勝する確率
A II・III方式 2月8日 問題▶P.63~	第1問	小問集合	場合の数、基本対称式の利用、集合と命題
	第2問	2次関数	2次関数の最大値、最小値
	第3問	図形の性質	正弦定理、三角形の面積、内接円の半径
	第4問	確率	2枚のカードを取り出したときの確率、期待値

傾向 2次関数、正弦定理・余弦定理、確率などが中心の出題。計算量がやや多め！

① 出題形式

全問マークシート方式である。

一般A I 方式（1月23日、1月24日）、A II・III方式（2月8日）とも、大問4題からの出題である。

マーク数は、A I（1月23日）、A I（1月24日）、A II・III（2月8日）とも44であった。そのうち、択一式は、それぞれ2～6であった。

大問別の出題分野は、A I（1月23日）、A I（1月24日）、A II・III（2月8日）とも大問1が小問集合で、場合の数、集合と命題などが出題された。大問2は、A I（1月23日）が確率、A I（1月24日）が図形の性質、A II・III（2月8日）が2次関数、大問3は、A I（1月23日）とA II・

III（2月8日）が図形の性質、A I（1月24日）が2次関数、大問4は、A I（1月23日）が2次関数、A I（1月24日）とA II・III（2月8日）が確率からそれぞれ出題された。

② 出題内容

出題内容は、どの日程も2次関数、集合と命題、図形の性質、確率などが共通して出題されている。

また、共通しての出題ではないが、絶対値を含む不等式の計算や基本対称式を利用した計算問題なども出題されている。

③ 難易度

標準的な問題が中心だが、計算にやや時間を要する問題もあるので、速く正確に計算する力が求められる。

対策 図やグラフをかき、自分で実際に計算をして理解を深めよう！

① 図やグラフをかき習慣をつけよう！

<数学 I 分野>

数と式からは、基本対称式の利用、絶対値を含む不等式、集合と命題、2次関数からは、グラフの頂点の座標、最大・最小、図形と計量から正弦定理・余弦定理、内接円の半径、三角形の面積などが出題された。単に計算をするだけでなく、図やグラフをかいて理解を深めながら学習を進めよう。集合と命題では、必要条件・十分条件などを判断する問題で、教科書の理解で十分に対応できる。

<数学 A 分野>

図形の性質からは、線分の比と平行線、場合の数と確率からは、確率を求めたり期待値を求める問題が出題された。

図形の性質では、難易度は高くはないものの、中学の復習をおろそかにすると対応できなくなるので、中学の内容の確認もしておこう。

場合の数と確率では、期待値を求める問題も出題されているので、1つ1つの確率を正確に求め、それらをもとに正確に計算を進める練習を日頃から積み重ねておこう。

② 理解したつもりになることを防ごう！

基礎的な問題では、確実に得点をするために、教科書で基礎的・標準的レベルの問題を確実に解けるようにしておこう。

計算を速く正確にできるようにしておくことも必要である。そのために、教科書を理解したら、そこで終わらせずに、必ず自分の手で実際に計算をしよう。